

孤峰

誰が救えるはずがあろう
こんなに高く登ってしまっては

望むらくは俗物への転落
呪うは無限なる世界の広がりよ

人は何故かこの俺の感性に誘惑され
まるでそこに楽園があるかのように香りを吸おうとする

愚かなるは人間の渴望よ
欲しければ一切合財くれてやる

(1984.12.24)